

**丸富士産業株式会社様に対する****『114 ポジティブ・インパクト・ファイナンス』第1回モニタリングの実施について**

百十四銀行（頭取 森 匡史）は、2024年9月30日（月）に実行した東支店取引先 丸富士産業株式会社（香川県高松市西植田町 代表取締役 雑賀 亮丞）向け『114 ポジティブ・インパクト・ファイナンス^{（※1）}』に対し、1回目のモニタリングを実施しましたのでお知らせします。

ポジティブ・インパクト・ファイナンスにおけるモニタリングでは、融資実行時に発行したポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書に掲げる、お客さまのマテリアリティ（重要課題）を解決するための取組方針と、その達成度合いを測定する KPI（重要目標達成指標）に対し、進捗状況の確認と、KPI 達成に向けた各種支援を実施します。本件モニタリングを通じて、お客さまのサステナブル経営を一層推進します。

当行は、今後も地域金融機関として、お客さまの SDGs や ESG への取組みを支援してまいります。

（※1）お客さまの企業活動が経済・社会・環境にもたらすインパクトを包括的に評価し、ポジティブインパクトの拡大とネガティブインパクトの緩和に向けた取組みを支援する融資。当行のポジティブ・インパクト・ファイナンス実施体制については、株式会社格付投資情報センターより、国連環境計画・金融イニシアティブ『UNEP FI』が制定したポジティブ・インパクト・ファイナンス原則に適合している旨のセカンドオピニオンを取得している。

記

■企業の概要

会 社 名 丸富士産業株式会社
所 在 地 香川県高松市西植田町 1292
業 種 産業用機械部品製造業

【サステナブルな取組み】

当社は、移動式のクレーンなど、産業機器と建設機械の部品を製造しているモノづくり企業です。創業は昭和 29 年で、木材所からスタートしました。製材だけではなく、製材用の機械の修理や販売も行い、材木に関する幅広いサービス対応と丁寧な営業で地域の信頼を重ねていきました。現在の製品づくりを始めたきっかけは、当時のお客さまより、ブレーキバンドの製作を依頼されたことでした。それ以降もパイプ、樹脂加工と、顧客の要望に応じているうちに、今の丸富士のスタイルになっていきました。幅広く手掛けているようですが、製材時代に培ったノウハウを生かした「モノづくり」をしています。

「仕事は断らない」「お客さまの困りごとを解消する」という姿勢は、変わりません。「丸富士に頼めばなんでもしてくれる。アフターサービスも万全」といわれるレベルを目標に、「もっと頼ってもらえる会社づくり」を行うとともに、今までの知識と技術をベースに、新しい分野にも挑戦していきます。

※丸富士産業株式会社の「ポジティブ・インパクト・ファイナンス第1回モニタリング報告書」については、別紙をご参照ください。

以 上

丸富士産業株式会社

ポジティブ・インパクト・ファイナンス

第1回モニタリング報告書



2025年11月10日

目次

1. 丸富士産業株式会社の企業概要	2
2. 目標達成に向けた進捗状況	3
3. 総評	4

1. 丸富士産業株式会社の企業概要

企業名	丸富士産業株式会社
設立	1954年 4月
代表者名	代表取締役 雑賀 亮丞
資本金	16百万円
従業員	107名（2025年9月30日時点）
売上高	2,745百万円（2024年12月期）
事業拠点	本社 〒761-0445香川県高松市西植田町1292 敷地面積：14,850㎡ 建物総床面積：2,779㎡ 春日工場 〒761-0101香川県高松市春日町608-1 敷地面積：4,100㎡ 建物総床面積：2,650㎡
事業内容	本社 機械加工・溶接製缶（配管溶接含む）・酸洗浄・塗装・組立・出荷業務 春日工場 事業内容：溶接製缶・塗装・MCナイロン等樹脂製品加工・PE押出し成型

2. 目標達成に向けた進捗状況

項目	内容
インパクト	環境的側面においてNIを緩和
内容・対応方針	営業用車両をEV車両へ更新していく。
KPI	2030/12期までに営業車のEV比率を50%以上とする。(2023/12期:0%)
KPIの進捗状況	2024/12期実績：5.5%（1台/18台） 2024/12期は、EV車を1台導入。 今後については、2030年までに買い替えを予定している営業用車両から先駆けてEV車へ切り替えていく方針。

項目	内容
インパクト	環境的側面においてNIを緩和
内容・対応方針	社内で使用する電力の大部分を再エネ由来のものにする
KPI	2030/12期までに使用電力の再エネ比率を20%以上とする（2023/12期:0%）
KPIの進捗状況	2024/12期実績：0% 2024/12期の実績は0%となるも、太陽光発電の導入によるCO ₂ 排出量の削減を計画。 すでに、当社のCO ₂ 排出量を試算しており、再エネ比率向上に向けて取組中。

項目	内容
インパクト	経済的側面においてPIを拡大
内容・対応方針	品質保証体制を強化し不良品の発生を極力抑える
KPI	2030/12期までに年間の不良率を35ppmまで削減する（2023/12期：66.2ppm） ※ppm:100万個に対しての発生割合 ※不良率は品質検査時に発見した不良品を算定する
KPIの進捗状況	2024/12期実績：61.6ppm 2024/12期は、前期並みに推移。当社の不良・不具合の発生原因は、外国人実習生の作業への理解不足が要因の大半であり、作業工程の徹底、スキルマップ活用等による従業員のレベルアップを強化中。また、作業のシステム化も検討中。 また、仕入先の品質チェックについても、3ヶ月に1回実施。

項目	内容
インパクト	経済的側面においてPIを拡大
内容・対応方針	同業他社と災害時連携協定（災害時の製造分担や部材の融通に関する連携協定）を締結し、サプライチェーン強靱化を行う
KPI	2030/12期までに他社との災害時連携協定を3件締結する（2023/12期:0件）
KPIの進捗状況	2024/12期実績：0件 2024/12期の実績は、前期より変動ないものの、候補先との協議を進めており、2025年度での新規協定の締結を見込む。

項目	内容
インパクト	社会的側面においてPIを拡大及びNIを緩和
内容・対応方針	安全意識とスキルの向上により労働災害を予防する
KPI	労働災害発生件数を毎年0件を維持する
KPIの進捗状況	2024/12期実績：4件 社内会議にて全社員へ労働災害の事例を共有し、再発防止策について協議。 外国人実習生の研修や教育にも注力しており、今後の改善を見込む。

項目	内容
インパクト	社会的側面においてPIを拡大及びNIを緩和
内容・対応方針	健康診断の二次健診受診を指導し、従業員の健康意識を高める
KPI	2030/12期までに健康診断二次健診受診率を100%にする（2023/12期:20%）
KPIの進捗状況	2024/12期実績：60% 社内にて二次健診の受診を積極的に励行した結果、20%→60%へ改善。 未受診の従業員を管理できるシステムの導入を検討する等、100%達成をめざす。

3. 総評

早期の目標達成に向け、インパクトへの取組みを当初よりも強化しているものが複数見受けられた。

営業用車両のEV比率向上については、微増となるも2030年までに買い替えを予定している営業用車両（一般車）から先駆けてEV車へ切り替えていく方針である。

当社の使用電力の再エネ比率については、2024年12期の実績は0%となるも、当社の建物に太陽光パネルを設置することで、CO₂排出量の削減を計画。すでに、当社のCO₂排出量を試算しており、再エネ比率向上に向けて積極的に取り組んでおり、今後の改善を見込む。

年間の不良率の改善については、前期並みにて推移。当社の不良・不具合の発生原因は、外国人実習生の作業への理解不足が要因の大半であり、作業工程の徹底、スキルマップ活用等による従業員のレベルアップを強化中。また、作業のシステム化も検討する等、社内体制の構築により、不良品の発生を抑制していく方針。

同業他社との災害時連携協定の締結については、候補先との協議を進めており、2025年度での新規協定の締結を見込む。

労働災害の発生件数については、2024年12期は、新しく採用した従業員（主に外国人実習生）の業務への知識不足により増加。社内会議等にて、全社員へ労働災害の事例を共有し、再発防止策について協議のうえ周知。また、外国人実習生の研修や教育にも注力しており、今後の改善を見込む。

健康診断の二次健診受診率については、積極的な励行により大幅に改善。今後も、100%達成に向けた取組みを続けていく方針。

百十四銀行も、温室効果ガス排出削減に資する取組みを支援するためにも温室効果ガス排出量が抑制される高性能機材や車両の導入などの業者紹介を行い、当社の取組みを支援していく。